

水稻 生育調節剤

本成績・概要カード 記入要領

- ※ 手書きの際は、濃い鉛筆か黒の万年筆、黒のボールペン等を用いて楷書体で記入して下さい。
(本成績書・概要書ともに、そのまま写真印刷になります)
- ※ パソコン等で作成する場合は、必ず様式を合わせて下さい。
- ※ 本成績書はA4(タテ)、概要カードはA4(ヨコ)です。用紙の拡大、縮小はしないで下さい。
- ※ 片面印刷で、提出して下さい。両面印刷はしないで下さい。
- ※ ホチキス(ステープラ)でとめないでください。とめる場合は、クリップをお願いします。

- ※ 非公開試験を除く、全ての成績書は、本成績書と概要書で、1セットです。

1. 成績書

- ① 「記入例」を参照の上、所定の様式(2枚1組)でご作成下さい。
- ② 適用性試験は、実用性の判定をご記載下さい。
 - ※ 農薬登録のガイドラインの整備に伴い、試験成績書に供試薬剤のロット番号を記載することが義務づけられましたので、供試したサンプルのロット番号の記載をお願いいたします。供試薬剤が製品で、ロット番号がない場合は製造番号をご記載下さい。

2. 概要

- ① 「記入例」を参照の上、所定の様式でご作成下さい。
- ② 切り貼りして写真製版しますので、列幅の変更はしないで下さい。

成績書、概要カードの枠(Word、Excel)を希望される場合

当協会ホームページ <http://www.japr.or.jp/> 内の「除草剤試験実施基準」のページにある「試験成績の用紙」より、ダウンロード出来ます。

成績書の提出は、必ず、プリントアウトした物を、郵送、宅配便等でご送付下さい。
e-メールでの送信はご遠慮下さい。

注) パソコンにて作成の際には、文字切れ等のチェックを必ずして下さい。

近年、パソコンで作成した成績書・概要書(特にExcel)において、所見等の文章が一部表示されていないものが増えています。

提出する前に、全ての文章が表示されているかどうか、プリントアウトした物(ディスプレイ上と異なる場合があります)で、いま一度確認をお願いいたします。

成績書記入例 ① 健苗育成

平成30年度 水稻関係生育調節剤試験成績書

実施年度を忘れずに書く。

薬剤名: **ABC-1701** 剤型: **液**

有効成分

及び含有率: ショクチョウチオラン:40%

ロット番号等: JAPR-001

作物名・品種: **移植水稻・コシヒカリ**

送付された薬剤のボトル・袋などに記載されている番号を記入。
市販品の場合は製品番号を記入。

試験機関	植調台東試験地	
担当者名	植調太郎	牛久花子
試験圃場名	台東試験	A圃場
圃場所在地	東京都台	台東

試験途中に担当者が異動した場合は、前任者名も併記する。

1. 試験のねらい: 稲の緑化始期育苗箱処理における根の生育促進, 移植後の活着促進効果の検討

2. 試験期間: 平成30年4月~5月

3. 試験方法

1) 試験区構成

実施年を忘れずに書く。

No.	薬剤名	処理時期	薬量	処理方法
1	ABC-1701 液	緑化始期(4月14日)	1000倍希釈液 500mL/箱	土壌灌注処理
2	"	"	500倍希釈液 500mL/箱	"
3対照	ショクチョウエースM液	緑化始期(4月14日)	1000倍希釈液 500mL/箱	土壌灌注処理
無処理	無処理			

2) 耕種概要

対照薬剤商品名を省略しない。

A. 育苗期間

(1) 試験規模および反復: 稚苗用育苗箱(580mm×280mm×高さ28mm) 3反復

(2) 種子準備: 4月2日 種子消毒 ショクリートCフロアブル200倍液、ショクチオン乳剤1000倍、24時間浸漬
4月4日~4月9日 浸種・催芽

(3) 播種日および播種量: 4月10日 播種 乾籾130g/箱

(4) 培土関係: ショクチョウ培土2号 床土3kg/箱 覆土1.5kg/箱

(5) 育苗管理: ビニールハウス内で平置きし、育苗シートを被覆して管理した。4月16日にシートを撤去し管理した。なお、育苗期間中ビニールハウス内の温度は、平均21°Cで推移した。

(6) 特記事項: 特になし

B. 本田栽培期間

(1) 試験規模および反復: 4.8㎡(1.2m×4m) 3反復

(2) 土壌条件: 土質・土性: 沖積埴壌土 腐植含有率:2.45% 減水深:1.0cm/日 pH:5.6

(3) 移植日: 5月15日、栽植密度18.2株/㎡、1本手植え

(4) 管理方法: ①施肥 5月13日、代かき前に燐加安444(N-P-K:14-14-14)を25kg/10a施用

②除草剤 5月20日(移植後5日目)にショクガード1キロ粒剤を1kg/10a散布

③殺虫殺菌剤 7月25日に殺虫剤ショクロード粉剤DLを4kg/10a散布

④その他

(5) 気象条件: 別表参照

(6) 特記事項: 特になし

3) 調査方法

(1) 苗質調査: 5月15日、移植直前の個体を調査。試験区(育苗箱)毎に5cm×28cmを切り出し茎葉部と根部に分別。茎葉部について、無作為に20本の個体を選び、草丈、葉齢、茎葉部乾物重量を調査した。

根部についても無作為に20本の個体を選んで根数を調査した。また切り出し部分の全個体数を調べ、1個体あたりの根部乾物重量を算出した。

(2) 移植後生育調査: 5月31日、移植後16日目に、草丈、茎数(本/株)、茎葉部乾物重、根部乾物重を調査した。なお調査部分については、苗の根を1cmに切りそろえ、1本手植えした。

4. 試験結果

1) 苗質調査結果

(調査日: 5月15日)

追加の調査項目があれば記載する

No.	葉齢	草丈		根数		茎葉部乾物重		根部乾物重		乾物重合計	
		cm	対無処理 区比%	本	対無処理 区比%	g/100本	対無処理 区比%	g/100本	対無処理 区比%	g/100本	対無処理 区比%
無処理	2.8	13.2	100	8.4	100	1.5	100	0.7	100	2.2	100
1	2.8	13.6	103	8.4	100	1.7	113	0.9	129	2.6	118
2	2.8	12.5	95	8.6	102	1.6	107	0.9	129	2.5	114
3対照	2.8	13.1	99	8.3	99	1.7	113	0.8	114	2.5	114

所見: 移植時の苗の生育は、草丈、葉齢、根数には区による差は見られなかったが、茎葉部および根部乾物重は処理区および対照区で無処理区より高まった。

2) 移植後の生育調査結果

(調査日: 5月31日)

No.	葉齢	草丈		茎数		茎葉部乾物重		根部乾物重		乾物重合計	
		cm	対無処理 区比%	本/本	対無処理 区比%	mg/本	対無処理 区比%	mg/本	対無処理 区比%	mg/本	対無処理 区比%
無処理	6.2	27.6	100	3.0	100	125	100	43	100	168	100
1	6.2	30.0	109	3.0	100	158	126	62	144	220	131
2	6.2	29.6	107	3.0	100	159	127	58	135	217	129
3対照	6.2	30.2	109	3.0	100	156	125	54	126	210	125

所見: 移植後15日目の生育は、葉齢や茎数には区による差は見られなかったが、草丈は処理区および対照区で無処理区より高く、茎葉部および根部乾物重は処理区および対照区で無処理区より高まった。
また、移植後45日目の本田での生育については、処理区、対照区および無処理区の間には差は認められなかった。(データ省略)

考察は判定の理由がわかるように、ねらいごとに取りまとめる。

5. 考察及び今後の問題点

根の生育促進効果:

発芽後緑化始期の灌注処理において、移植時の苗の乾物重(茎葉部および根部)の増加が認めれ、水稲への薬害は認められなかったことから、薬量500~1000倍液、500mL/箱処理で実用化可能と考えられる。

活着促進効果:

移植後初期生育の草丈、根数および乾物重(茎葉部および根部)の増加が認められ、水稲への薬害は認められなかったことから、薬量500~1000倍液、500mL/箱処理で実用化可能と考えられる。

試験のねらいに応じて適切に記載する。
判定基準
○: 実用性ありと判断されるもの
△: 問題点が残されていて、さらに検討の必要なもの
×: 効果が無いもの、または作物への悪影響があるもの

6. 実用性の判定

薬剤名	処理時期	薬量	処理方法	判定		
				根生育 促進	活着 促進	
ABC-1701 液	緑化始期	1000倍液, 500mL/箱	土壌灌注処理	○	○	
〃	〃	500倍液, 500mL/箱	〃	○	○	

使用基準案 (○と判定されたものについて記載)

対象作物 (栽培法)	使用目的	処理時期	薬量	処理方法	適用土壌
移植水稲	育苗期での根の生育促進, 移植後の活着促進	緑化始期	500~1000倍液, 500mL/箱	土壌 灌注処理	—

使用上の注意:

成績書記入例 ②登熟向上

平成30年度 水稻関係生育調節剤試験成績書

実施年度を忘れずに書く。

薬剤名: **BCD-1702** 剤型: **粒**

有効成分

及び含有率: ショクチョウストロピン: 7%

ロット番号等: **JAPR-002**

作物名・品種: **移植水稻・コシヒカリ**

送付された薬剤のボトル・袋などに記載されている番号を記入。
市販品の場合は製品番号を記入。

試験機関	植調台東試験地
担当者名	植調太郎 牛久花子
試験圃場名	台東試験地B圃場
圃場所在地	東京都台東区

試験途中に担当者が異動した場合は、前任者名も併記する。

1. 試験のねらい: **箱処理における登熟向上効果、品質向上効果の検討**

2. 試験期間: **平成30年5~10月**

3. 試験方法

実施年を忘れずに書く。

1) 試験区構成

No.	薬剤名	処理時期	薬量	処理方法
1	BCD-1702粒	出穂10日~20日前 (8月14日、出穂19日前)	3kg/10a	湛水処理
2対照	ショクワン粒剤	〃	4kg/10a	〃
無処理	無処理			

対照薬剤商品名を省略しない。

2) 耕種概要

(1) 試験規模および反復: **216㎡(7.2m×30m) 1反復**

(2) 土壌条件: **土質・土性: 沖積埴土 腐植含有率: 5.0% 減水深: 0.5cm/日 pH: 5.1**

(3) 作期および栽培方法: **普通期 稚苗機械移植栽培(6条植、裁植密度15.9株/㎡)**

(4) 代かき日: **平成30年6月22日**

(5) 移植日: **平成30年6月24日**

(6) 移植時の苗質: **草丈10.5cm 葉齢2.8葉 地上部乾物率21.8%**

(7) 出穂期: **9月2日 出穂(無処理区)**

(8) 収穫日: **10月19日 収穫**

(9) 管理: ①施肥 **コシカ専用基肥一発型、N:P:K=20:10:10を側条施肥付田植え機で30.1kg/10a施用**

②除草剤 **7月2日(移植後8日目)にシヨレット®RXフロアブルを500mL/10a散布**

③殺虫殺菌剤 **7月25日に殺虫剤シヨロード®粉剤DLを4kg/10a散布**

(10) 気象条件: **別表参照**

(11) 特記事項: **特に無し**

3) 調査方法

(1) 生育調査: **・8月6日、試験区ごと3地点を選び、1地点あたり10株の草丈、茎数、稈長、穂長を測定。
・8月10日、葉色(シヨクチョウ葉緑素計SPAD-4188)を測定。
・試験区ごとの出穂期を確認した。**

(2) 収量調査: **・10月19日、25株(1.6㎡)を坪刈りし穂数を数え、自然乾燥後に脱穀、唐箕選、籾摺り。
・サンプル株から登熟歩合、収量調査サンプルから収量構成要素を調査。**

(3) 品質調査: **・JAPR社製穀粒判別器(JAPR-310)で精玄米(1.8mm選別)を測定。未熟粒を調査。**

4. 試験結果

1) 生育および倒伏程度調査結果

追加の調査項目があれば記載する

No.	出穂期	稈長		穂長		倒伏程度 倒伏無し[0]~完全倒伏[4]			
		cm	対無処理 区比%	cm	対無処理 区比%	10/28	11/3	11/9	
無処理 1	9/2	79.6	100	18.2	100	0	0	0	
	9/2	81.0	102	18.1	100	0	0	0	
2対照	9/2	80.9	102	17.9	99	0	0	0	

所見: 出穂期、および稈長、穂長に試験区間での差はなかった。また何れも水稻の倒伏はみられなかった。

2) 収量および収量構成要素調査結果

No.	精玄米重		穂数		一穂粒数		総粒数		登熟歩合		千粒重		
	kg/10a	対無処理 区比%	本/m ²	対無処理 区比%	粒/穂	対無処理 区比%	×100粒 /m ²	対無処理 区比%	%	無処理 区差	g	対無処理 区比%	
無処理 1	659	100	400	100	76.2	100	304	100	88.7	-	23.7	100	
	661	100	408	102	75.4	99	308	101	91.4	+2.7	23.5	100	
2対照	650	99	396	99	78.9	104	313	103	88.6	-0.1	23.5	100	

所見: 本剤処理区の登熟歩合は、無処理区に比べて僅かに高かった。その他の収量構成要素および収量は試験区間で差はなかった。

追加の調査項目があれば記載する

3) 玄米品質調査結果

No.	整粒 %	未熟粒 %	未熟粒内訳						
			乳白粒 %	心白粒 %	青未熟粒 %	基部未 熟粒%	背・腹白未 熟粒%	その他 未熟粒%	
無処理 1	65.8	29.0	6.7	0.5	4.7	0.1	0.1	16.9	
	66.1	28.4	5.6	0.6	5.3	0.1	0.2	16.6	
2対照	65.6	28.6	5.5	0.5	5.6	0.1	0.2	16.7	

所見: 本剤処理区、対照剤処理区とも、玄米品質に対する悪影響はみられなかった。

5. 考察及び今後の問題点

考察は判定の理由がわかるように取りまとめる。

登熟向上:

本剤処理により登熟歩合の向上が僅かにみられ、水稻への薬害、悪影響がないため実用化の可能性がある。本年は登熟歩合が高い試験条件であり、向上程度が小さかったため、年次を重ねた効果の確認が望まれる。

試験のねらいに応じて適切に記載する。

判定基準

- : 実用性ありと判断されるもの
- △: 問題点が残されていて、さらに検討の必要なもの
- ×: 効果が無いもの、または作物への悪影響があるもの

6. 実用性の判定

薬剤名	処理時期	薬量	処理方法	判定		
				登熟 向上		
BCD-1702粒	出穂10日~20日前	3kg/10a	湛水処理	○		

使用基準案 (○と判定されたものについて記載)

対象作物 (栽培法)	使用目的	処理時期	薬量	処理方法	適用土壌
水稻	登熟向上	出穂10日~ 20日前	3kg/10a	湛水処理	埴壤土

使用上の注意:

成績書記入例 ③倒伏軽減

平成30年度 水稻関係生育調節剤試験成績書

実施年度を忘れずに書く。

薬剤名: **CDE-20S** 剤型: **粒**

有効成分及び含有率: ショクゾールP:0.002% (N-P-K:20-11-11)

ロット番号等: **JAPR-003**
送付された薬剤のボトル・袋などに記載されている番号を記入。市販品の場合は製品番号を記入。

作物名・品種: **直播水稻・コシヒカリ**

試験機関	植調台東試験地
担当者名	植調太郎、牛久花子
試験圃場名	台東試験 C圃場
所在地	東京都台東

試験途中に担当者が異動した場合は、前任者名も併記する。

1. 試験のねらい: **直播水稻での側条施用における倒伏軽減効果の検討**

2. 試験期間: **平成30年5月~9月**

3. 試験方法

実施年を忘れずに書く。

追加の調査項目があれば記載する

1) 試験区構成

No.	薬剤名	薬量 kg/10a		処理時期および処理方法	ショクゾールP投入量 (ga.i/10a)	肥料成分投入量 N-P-K(kg/10a)
		目標	実施			
1	CDE-20S粒	30	31.3	基肥として播種時 側条施用	0.63	6.3-3.4-3.4
2		40	40.6		0.81	8.1-4.5-4.5
3対照	CDR-20S粒	30	31.4	"	—	6.3-3.5-3.5
4対照	(肥料成分のみ N-P-K:20-11-11)	40	40.4		—	8.1-4.4-4.4

対照薬剤商品名を省略しない。

2) 耕種概要

(1) 試験規模および反復: **45㎡(3m×15m) 3反復**

(2) 土壌条件: **土質・土性: 沖積・軽埴土 腐植含有率:3.98% 減水深:0.5cm/日以下**

(3) 栽培方法: **鉄コーティング種子土壌表面播種 鉄粉衣量 乾籾重×0.3**

(4) 播種方法: **鉄コーティング種子専用播種機「植調社製”植まきちゃん”」(4条播種)・側条施肥機使用
播種量 乾籾4kg/10a(栽植密度:18株/㎡)**

(5) 栽培期間: **4月26日植代、5月2日播種、9月15日収穫**

(6) 水管理: **播種後落水出芽**

(7) 一般防除: **雑草防除 5月4日ショクパート粒剤 3kg/10a、5月22日ショクチョウコンプリートフロアブル 500mL/10a、
6月14日ショクチャー-EW 100mL(散布水量100L)/10a**

(8) 気象条件: **別表参照**

(9) 特記事項: **対照剤のCDR-20S粒は肥料成分のみであるため、試験区は無処理区を兼ねる。**

3) 調査方法

(1) 生育: **7月6日(+65)、7月27日(+86)に草丈および莖数を計測**

(2) 倒伏: **経時的に観察調査を実施。評価は5段階法(0:無~4:完全倒伏)とした**

(3) 稈長: **収穫時に5株×2箇所/区について主稈長を調査**

(4) 収量: **9月15日に10株×2箇所/区を対象に刈取を行い脱穀、籾摺り後、粒厚1.8mm以上の玄米を秤量**

(5) 収量構成要素: **収量調査と同じサンプルを用い、穂数、籾数、登熟歩合(粒厚1.8mm以上)、玄米千粒重を調査**

4. 試験結果

1) 生育調査結果

追加の調査項目があれば記載する

No.	調査日: 7月6日(+65)				調査日: 7月27日(+86)				出穂期
	草丈		茎数		草丈		茎数		
	cm	各対照 区比%	本/m ²	各対照 区比%	cm	各対照 区比%	本/m ²	各対照 区比%	
1	60.3	89	700	97	91.1	90	585	104	8/1
2	60.7	89	718	101	91.0	90	602	103	8/1
3対照	68.0	100	718	100	101.5	100	565	100	8/1
4対照	68.0	100	709	100	101.4	100	585	100	8/1

所見: 本剤処理により草丈が低く推移し、移植後65日目の生育調査において同肥料成分である対照区比が89%となった。茎数については播種後86日の調査では本剤処理区が対照区を上回った。

2) 倒伏関係調査結果

追加の調査項目があれば記載する

No.	稈長 (調査日: 9月15日)		穂長 (調査日: 9月15日)		倒伏程度 倒伏無し[0]~完全倒伏[4]				節間長(cm)					
	cm	各対照 区比%	cm	各対照 区比%	8/21	9/1	9/8	9/15	N0	N1	N2	N3	N4	N5
	1	85.9	93	16.9	99	0.0	0.5	1.8	4.0	36.2	21.2	16.5	8.8	2.7
2	85.0	90	16.7	98	0.0	0.7	1.7	4.0	35.6	20.8	16.9	8.8	2.9	-
3対照	92.7	100	17.1	100	0.3	2.8	3.8	4.0	36.8	22.3	17.9	11.0	4.5	0.3
4対照	94.3	100	17.1	100	0.0	3.5	3.8	4.0	36.8	22.5	18.5	11.7	4.8	-

所見: 対照区の稈長は93~94cm程度であったのに対し本剤処理区では85cm程度と7~10%短縮された。節間長は全体的に短縮され、特に下位節間で顕著であった。
本剤処理区、対照区ともに9月12日の強風により刈り取り直前には完全に倒伏したが、対照区は収穫2週間前の調査時に大半が倒伏していたのに対し、本剤処理区は収穫1週間前まで倒伏程度が小さく推移し、倒伏が軽減されていた。

3) 収量調査結果

追加の調査項目があれば記載する

No.	精玄米重		穂数		籾数		有効歩合(%) *	登熟歩合(%)	玄米千粒重(g)
	kg/10a	各対照 区比%	本/m ²	各対照 区比%	籾/穂	籾/m ²			
1	451	100	531	102	61	32,183	76	68	20.8
2	449	103	527	102	62	32,563	73	66	20.8
3対照	449	100	520	100	62	32,470	72	69	20.3
4対照	434	100	516	100	64	32,775	73	67	20.1

所見: 対照区に比べ穂数が増加したが、一穂籾数は僅かに少なく、m²当たりの籾数はほぼ同等であった。登熟歩合は対照区と同程度で、精玄米重は対照区と同程度であった。

注)*播種65日後の茎数より算出

5. 考察及び今後の問題点

考察は判定の理由がわかるように取りまとめる。

倒伏軽減効果:

本剤の湛水直播栽培における播種時側条施用により、草丈および稈長の短縮が認められ、その結果倒伏を軽減する効果が確認された。収量については対照区と同等であり、施用量30~40kg/10aで実用化可能と考える。

試験のねらいに応じて適切に記載する。

判定基準

○: 実用性ありと判断されるもの

△: 問題点が残されていて、さらに検討の必要なもの

×: 効果が無いもの、または作物への悪影響があるもの

6. 実用性の判定

薬剤名	処理時期	薬量	処理方法	判定		
				倒伏軽減		
CDE-20S粒	播種時	30kg/10a	側条施用	○		
〃	〃	40kg/10a	〃	○		

使用基準案 (○と判定されたものについて記載)

対象作物 (栽培法)	使用目的	処理時期	薬量	処理方法	適用土壌
湛水直播水稻	倒伏軽減	播種時	30~40kg/10a	側条施用	埴壤土

使用上の注意:

概要記入例 ①健苗育成

薬剤名	試験場所	試験条件	調査結果要約											判定		所見 (ねらい・考察・使用基準等)
			品 種	処理量 (/箱)	苗質調査(調査日:5月15日)						本田内生育調査(調査日:5月31日)					
土壌条件	草丈 cm	葉齢 L			根数 本	乾物重 g/100本			草丈 cm	茎数 本	乾物重 g/100本					
播種日			茎葉部	根部		合計	茎葉部	根部			合計					
ABC-1701液	植調台東試験地	コシヒカリ	1000倍、500mL/箱	13.2	2.8	8.4	1.5	0.7	2.2	27.6	3.0	125	43	168	○ ○ ○ ○	ねらい:発芽後(緑化始期)の育苗箱土壌灌注処理における発根促進および活着促進効果 結果および考察: ・移植時の苗の乾物重、および移植後初期の草丈、乾物重が増大 ・水稻への薬害なし ・発根促進および活着促進で実用化可能 使用基準案 処理時期:緑化始期 薬量:500~1000倍液 500mL/箱 処理方法:土壌灌注処理
		沖積埴壌土(本田)	無処理	13.6	2.8	8.4	1.7	0.9	2.6	30.0	3.0	158	62	220		
		平成30年4月10日	500倍、500mL/箱	12.5	2.8	8.6	1.6	0.9	2.5	29.6	3.0	159	58	217		
		平成30年5月15日	1000倍、500mL/箱	13.1	2.8	8.3	1.7	0.8	2.5	30.2	3.0	156	54	210		
		基肥:3.5-3.5-3.5 (N-P-K kg/10a)	()内は無処理区比%	必要に応じて無処理区比%を記載する												
処理日	発芽後(緑化始期)に育苗箱の上から希釈液を灌注処理															
処理方法等	育苗培土:シヨクフョウ培土2号 (N:P:K=8:8:8)															

適用性試験の場合は、試験のねらいに応じて、必ず実用性の判定を記載する。

判定基準
○:実用性ありと判断されるもの
△:問題点が残されていて、さらに検討が必要なもの
×:効果が無いもの、または作物への悪影響があるもの

概要記入例 ②登熟向上

薬剤名	試験場所	試験条件		調査結果要約											判定	所見 (ねらい・考察・使用基準等)				
		品 種	コシヒカリ	処理量 (/10a)	穂長 (cm)	出穂期	収量調査					品質調査等 (%)								
BCD-1702粒	植調台東試験地	土壌条件	沖積埴壌土	無処理	18.2	9/2	穂数 本/㎡	一穂穂数 粒/本	登熟歩合 %	千粒重 g	総穂数 粒/㎡	精玄米重 kg/10a	整粒	未熟粒	うち 乳白	うち 心拍	登熟 向上	ねらい：出穂10～20日前処理における登熟向上効果の検討 結果および考察： ・登熟歩合は無処理区に比べて僅かに高い ・その他は何れも差なし ・水稻への薬害、悪影響なし ・登熟向上の目的で実用性あり 使用基準案 処理時期：出穂10～20日前 薬量：3kg/10a 処理方法：湛水土壤散布		
		播種日	平成30年6月1日				400	76.2	88.7	23.7	304	659	65.8	29.0	6.7	0.5				
		移植日	平成30年6月24日	3kg	18.1	9/2	408 (102)	75.4 (99)	91.4	23.5 (100)	308 (101)	632 (96)	66.1	28.4	5.6	0.6	○			
		施肥	側条施肥： 6.0-3.0-3.0 (N-P-K kg/10a)	対)シヨクシ粒 4kg ()内は無処理区比%	17.9	9/2	396 (99)	78.9 (104)	88.6	23.5 (100)	313 (103)	650 (99)	65.6	28.6	5.5	0.5				
		処理日	平成30年8月14日 (出穂19日前)																	
		収穫日	平成30年10月19日	必要に応じて無処理区比%を記載する					適用性試験の場合は、試験のねらいに応じて、必ず実用性の判定を記載する。 判定基準 ○：実用性ありと判断されるもの △：問題点が残っていて、さらに検討が必要なもの ×：効果が無いもの、または作物への悪影響があるもの											
		処理方法等	湛水土壤処理																	

概要記入例 ③倒伏軽減

薬剤名	試験場所	試験条件		調査結果要約											判定	所見 (ねらい・考察・使用基準等)		
		品 種	処理量 〈実施用量〉 (/10a)	生育調査 7/6		出穂期	倒伏程度 0~4 9/15	稈長 cm 9/15	穂長 cm 9/15	収量関係							倒伏軽減	
土壌条件	草丈 cm	茎数 本/株	穂数 本/m ²	一穂粒数 粒/本	登熟歩合 %					千粒重 g	総粒数 粒/m ²	精玄米重 kg/10a						
CDE-ZOS粒	植調台東試験地	コシヒカリ	無処理													○	ねらい：直播水稻での播種時側条施用による倒伏軽減効果の検討 結果および考察： ・草丈、稈長が短縮し、倒伏が軽減 ・薬害なく、収量は対照区と同等 ・倒伏軽減剤として実用化可能 使用基準案 処理時期：播種時 使用量：30~40kg/10a 処理方法：側条施用	
		沖積・軽埴土	30kg<31.3kg>	60.3	700	8/1	1.8	85.9	16.9	531	61	68	20.8	32.183	451			
		平成30年5月2日	40kg<40.6kg>	60.7	718	8/1	1.7	85.0	16.7	527	62	66	20.8	32.563	449			
		—	(89)	(97)				(93)	(99)	(102)					(100)			
		施肥	30kg区：6.0-3.3-3.3 40kg区：8.0-4.4-4.4	(89)	(101)			(90)	(98)	(102)					(103)			
		平成30年5月2日	対) CDR-ZOS粒	30kg<31.4kg>	68.0	718	8/1	3.8	92.7	17.1	520	62	69	20.3	32.470			449
		—	(100)	(100)				(100)	(100)	(100)					(100)			
		平成30年9月15日	40kg<40.4kg>	68.0	709	8/1	3.8	94.3	17.1	516	64	67	20.1	32.775	434			
—	(100)	(100)				(100)	(100)	(100)					(100)					

必要に応じて無処理区比%を記載する

適用性試験の場合は、試験のねらいに応じて、必ず実用性の判定を記載する。

判定基準
○：実用性ありと判断されるもの
△：問題点が残されていて、さらに検討が必要なもの
×：効果が無いもの、または作物への悪影響があるもの